

2013 年度秋学期 日本理解に関する科目・授業概要

	授業科目名 Subject	担当教員 Lecturer	曜日・時間・教室 Period, Classroom	目標 Aim	内容とテキスト Course outline, Textbook
日 本 の 文 化 と 社 会 *	日本の文化と社会 B	神埜正子 (かみや まさこ) 宇都宮 由加 (うつのみや ゆか)	月・1 N202	本科目は、諸外国の影響を受けながら、長い年月をかけて日本人が生み出し、育んできた、衣生活・食生活について、階層、時代、地域などを切り口に、文化の視点から捉えようとするものである。衣生活や食生活に生かされたこうした知恵や文化がいかに継承されているかなどを学んで、現在の日本の文化と社会を再認識するきっかけとし、生活文化の視点から日本への理解を深めてほしい。	【内容】衣生活については、古代から現代に至る変化をとらえ、それぞれの時代の文化の成立と現在まで受け継がれている伝統行事の関連で展開する。食生活については、日本の食文化を社会の変化と共にとらえ、さらに今日の食生活の問題点に触れつつ、食生活・食文化の発展とは何かについて考える。【テキスト】特になし。 【評価方法】平常点評価(授業への参加状況)50%。レポートおよびペーパーテスト50%(各講師の持ち点25%ずつ)。①1~7週(神埜)については毎回のまとめのミニレポートおよび最終日(7回目)のペーパーテスト。②8~15週(宇都宮)については毎回のミニレポートおよび最終日(15回目)のペーパーテスト。このテストには、配付資料の持ち込みを可とする。
	日本の文化と社会 D	古田悦造 (ふるた えつぞう)	木・1 N407	日本における地域差に関して、地名・言語・食文化等を事例に4~5回講述する。また、野外実習の現地観察によって、その相異を体感する。	【内容】日本を理解する上で重要である各地域の位置関係や社会・文化の地域差に関して習得する。また、現地観察によりその知識の確認と再認識を図る。 【テキスト】なし。 【評価方法】出席点20点、野外巡検参加30点、野外巡検レポート50点。
	日本の文化と社会 F	日高 慎 (ひだか まこと)	木・1 C103	本講義では考古学をもとにして旧石器時代から近代・現代までの日本歴史・文化について通観する。考古学は発掘調査によって出土した遺構・遺物をもとに歴史を復元する学問である。歴史は書かれたもの、すなわち文献史料を用いて説明を行うことが多いものの、考古学の成果を無視しては日本歴史は語れない。本講義を通じて考古学の特徴を理解してほしい。	【内容】考古学は発掘調査の成果から歴史を復元する学問である。歴史は書かれたもの(文献史料)で説明されることが多いが、かかれたものはきわめて限定的であるとともに、支配者側の論理によって書き留められることが多い。つまり文献史料だけで歴史を語ることは、一方的な歴史解釈になってしまうがちである。それに対して考古資料は人々の生活そのものが残されることが多い。考古学の成果を通じて日本歴史・文化を考えたい。 【テキスト】なし 【参考文献】図解・日本の人類遺跡(東京大学出版会)、図解・日本の中世遺跡(東京大学出版会) 【成績評価】平常点40%、最終レポート60%。平常点は出席及び小レポートによって採点する。最終テストは授業で取り上げたテーマに関して出題し、解答をまとめる。

	日本の文化と社会 H	朝倉 隆司 (あさくら たかし)	木・1 N101	健康、医療などに関わる日本社会と文化とできるだけ関連させて、いくつかのトピックをあげて話す。	【内容】これまでの研究経験において、在日韓国朝鮮人、日系ブラジル人など、移民の精神健康に関わる調査を通じて、日本社会との関わりを考えてきたことがある。ほかにも海外調査の経験があるので、それらを元に、話題を提供する。一方的な講義ではなく、できるだけ双方向性で、議論する内容としたい。【テキスト】なし【評価方法】授業への参加とレポートなど。
--	---------------	---------------------	-------------	--	--

\*「日本の文化と社会 A・C・E・G」は、春学期に開講します。「日本の文化と社会」の授業内容は、「大学ホームページ>学内ネットワーク>シラバス検索」からも見られます。

日 本 研 究 科 目 **	日本研究演習 A (社会)	加藤 拓 (かとう たく)	金・5 S407	日本で習慣化した消費行動、日本で最近ヒットした商品や流行現象などをとりあげ、その社会的背景や企業行動を理解する。	【内容】講義のはじめに日本で定番化した商品や、いま流行している商品、消費現象に関する話題を紹介し、その理由を社会的背景や関連する企業の行動を中心に説明します。日本人にもものを買ってもらう方法を少し理解できるかもしれません。受講生の皆さんには、自国の似ている例を紹介していただき、日本の場合との共通点や相違点を発表していただく予定です。楽しいクラスにしましょう。 【テキスト】とくに定めません。【評価方法】平常点 50%、発表・レポート 50%
	日本研究 B (人文)	有澤知乃 (ありさわし の)	火・2 S206	日本の祭りについて、宗教、社会、文化、芸能など様々な観点から考察します。	【内容】日本全国の祭りについて、映像資料を見ながら学びます。京都の祇園祭では、どうして華やかな山鉾を曳いて人々が街を練り歩くのでしょうか？盆踊りの歌や踊りに込められている意味は？札幌雪まつりが国際的な祭りに発展した背景は？各地の人々の風俗や信仰が、祭りの中にどのような形で表れているかを考え、更に現代社会における祭りの変遷や新しい取り組みについても議論します。課題として、各自で祭りに行ってフィールドワークを行い、観察したこと、考えたことについて発表をしてもらいます。 【テキスト】とくに定めません。【評価方法】平常点15%、発表35%、レポート50%

<p>日本研究演習C Field Study (School Visit) Presentations Discussions Activities on the topics of youth culture, education, schools, teachers, students, and children.</p>	<p>戸田 孝子 (とだ たかこ)</p>	<p>火・5 W301</p>	<p>【ねらい】 この授業は、比較文化の視点から、日本人学生とともに、それぞれが得意とするフィールドにおける「若者文化、教育、学校、教師、子供」などをテーマに、プレゼンテーションや、討論、メッセージ・カードの交換などの活動、（希望者は、日本の小学生との絵手紙交換や学校訪問）を行い、若者文化や教育の側面から日本理解を深める。</p>	<p>【内容】 初回、フィールド・スタディの概念、現代の多様なアプローチについて講義を受ける。日本人学生も参加する。各自、自分のフィールドを決め、ユニークなプレゼンテーションについて考案する。発表日を予約し、発表当日の教室の環境設定について講師と相談する。発表時間は、デモンストレーションなども含め一人30～60分、プレゼンテーションの具体的内容、方法については、初回に、前例が紹介される。第2回目から、発表が始まる。発表言語は、日本語でも英語でもよい。第3回目、新しい発表の前に、前回の発表者が前回の発表のまとめの短い復習を行う。前回の発表者は、講師の用意した60色の色紙の中から好きな5色を選び、その5色のカードをクラス・メイトに配り、自分のために希望するテーマで、メッセージを書いてもらう。第4回目以降、この方法で、受講生は、順番に発表する。最終回には、クラス全員で、記念の寄せ書きを作成する。5色のメッセージ・カードと寄せ書きは、最終回に返却されるので、受講記念に持ち帰ってよい。このユニークな授業方法は、多文化共存の具体的な有り方を、友好的、創造的な発想で提案できるような人材を育成するために採用されている。日本人学生と交流しながら、自分の得意なフィールドについて、発表し、デモンストレーションしてみせ、討論したりする。ただ、それぞれの得意フィールドの情報交換をするだけでなく、メッセージ・カードを通して、発表者とクラス・メイトが、ハートの通ったコミュニケーションができるように工夫されている。希望者は、小学校で、日本人の子供たちと交流するプログラムにも参加できる。【評価方法】 学期末レポートとして、①自己のプレゼンテーションにおいて、クラス・メイトに伝えたかったこと ②クラス・メイトのプレゼンテーションを傾聴して得られた異文化理解 ③授業における諸活動をとらえて深めた他者理解についての、新知見をまとめ提出する。</p>
<p>日本研究 D (芸術)</p>	<p>石井 健 (いしい たけし)</p>	<p>金・4 ***書道演習室</p>	<p>この授業科目では、日本の文字文化を中心に考察していきます。本年度は、毛筆の実技を中心にしながら、書道や文字に関わる文化について幅広く学んでいきます。</p>	<p>【内容】 日本の文字文化の基礎となる中国の書道の歴史を学んだのち、「ひらがな」や「カタカナ」も含め、日本の書道の歴史や文字文化について、筆や墨を使って文字を書く実技を中心にしながら勉強していきます。テキスト、鉛筆などの筆記用具、毛筆の道具等は各自で用意してもらいます。 【テキスト】 授業中に指示します。必要に応じ、資料を配布します。 【評価方法】 平常点 50% 提出物 30% レポート 20%</p>

\*\* 「日本研究 A・C」 「日本研究演習 B・D」 は、春学期に開講します。

\*\*\*書道演習室は 芸術・スポーツ科学系研究棟 4号館 2階 にあります。